

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

悲愴

チャイコフスキー&メンデルスゾーン
二つの傑作を楽しむ土日の午後

英国を中心に高い評価を得る国際派
熟達の指揮で会場を感動へと誘う!

尾高忠明 (名誉客演指揮者)

Conductor = TADAAKI OTAKA

メンデルスゾーン: 序曲「フィンガルの洞窟」 作品26

MENDELSSOHN: "The Hebrides" Overture, op. 26

メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲 小短調 作品64

MENDELSSOHN: Violin Concerto in E minor, op. 64

チャイコフスキー: 交響曲第6番 口短調 作品74 「悲愴」

TCHAIKOVSKY: Symphony No. 6 in B minor, op. 74 "Pathétique"

©Martin Richardson

メンデルスゾーン ヴァイオリン協奏曲

読売日本交響楽団 第219回土曜マチネーシリーズ
Saturday Matinee Series No. 219

2019年 **8月24日** (土) 14時開演

東京芸術劇場 コンサートホール (池袋)

Saturday, 24th August 2019, 14:00 / Tokyo Metropolitan Theatre

¥7,500 A¥5,500 B¥4,500 C¥4,000

読売日本交響楽団 第219回日曜マチネーシリーズ
Sunday Matinee Series, No. 219

2019年 **8月25日** (日) 14時開演

東京芸術劇場 コンサートホール (池袋)

Sunday, 25th August 2019, 14:00 / Tokyo Metropolitan Theatre

¥7,500 A¥5,500 B¥4,500 C¥4,000

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

共催: 東京芸術劇場 (公益財団法人 東京都歴史文化財団)

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

巨匠メータとの共演でデビュー!
艶やかな音色で魅了するスペインの名花

**アナ・マリア・
ヴァルデラーマ**
(ヴァイオリン)

Violin = ANA MARÍA VALDERRAMA

二つの名曲を 一度に味わう、 贅沢な週末の午後

©読響

尾高忠明 (名誉客演指揮者)

Conductor = TADAAKI OTAKA

国内外の名だたるオーケストラと共演を重ねる、日本を代表する名匠。1992年から98年まで読響の第6代常任指揮者として数々の名演を生み、現在は名誉客演指揮者の地位にある。サヴァリッシュ、シュパンナーゲルらの薫陶を受け、87年にBBCウェールズ響の首席指揮者へ就任、これまでに東京フィル常任指揮者、札幌音楽監督、メルボルン響首席指揮者、新国立劇場オペラ芸術監督などを歴任。現在はBBCウェールズ・ナショナル管絃冠指揮者、N響正指揮者、大阪フィル音楽監督などを務めている。ロンドン響、BBC響、ベルリン放送響、フランクフルト放送響、バーミンガム市響などへ客演。サントリー音楽賞をはじめ、英国エリザベス女王から大英勲章CBE、英国エルガー協会から日本人初のエルガー・メダルなどを受賞。

“協奏曲”は華やかで刺激的な、ソリストの高い技巧が楽しめるジャンルだ。そして数ある協奏曲の中でも高い人気を誇るのが、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲だろう。一方、“交響曲”は作曲家が深い芸術性を探求した先に生み出されるもので、そこには彼らの魂が込められている。作曲家の強い想いを感じる代表作の一つといえば、チャイコフスキーの交響曲第6番「悲愴」。彼が込めた想いは時代を超えて、私たちに深い感銘を与えてくれる。

メンデルスゾーンはロマン派の“メロディメーカー”といわれるほど、美しく印象的な旋律を多く生み出した。ヴァイオリン協奏曲も一度聴けば忘れられない、甘く、ときに憂いを帯びたメロディが次々に登場し、煌びやかなヴァイオリンの魅力を味わえる名曲として世界中で愛されている。今回ソロを務めるのは、スペインの名花ヴァルデラーマ。巨匠メータの指揮でデビューを飾り、サラサーテ国際コンクールではスペイン人初の優勝を勝ち取るなど輝かしい経歴をもつ実力派だ。深みのある艶やかな音色で世界各地の聴衆を魅了しており、今何が待望の日本デビュー。スペインの爽やかな青空を思わせる、伸びやかで流麗なソロに期待が高まる。

メインの「悲愴」は、チャイコフスキーが最後に完成させた交響曲。初演の9日後に訪れる自らの死を予想していたかのように、悲しみと感傷が渦巻き、はかなく美しいメロディが胸を打つ。“死”を意識するほど際立つのは、“生”の尊さとまぶしさ。「悲愴」は管弦楽が描く、生と死の壮大なドラマである。読響名誉客演指揮者の尾高忠明は、英国をはじめ欧州でも活躍を続ける国際派マエストロ。滋味豊かな風格をたたえ、楽員からの信頼も厚く、近年ますます円熟味を増している。熟達の指揮でオーケストラから豊潤なサウンドを引き出し、会場に深い感動をもたらすだろう。

1曲目にはメンデルスゾーンの序曲「フィンガルの洞窟」を演奏。洞窟内に振り注ぐ光を思わせる、神秘的な響きで幕を開ける。



アナ・マリア・ ヴァルデラーマ (ヴァイオリン)

Violin = ANA MARÍA VALDERRAMA

巨匠メータとの共演でデビューを果たしたスペインの名花。ブロン、ヴァイトハースらに師事。2011年にはサラサーテ国際コンクールでスペイン人として初の優勝に輝いた。リスボン国際ヴァイオリンコンクール、ノボシビルスク国際ヴァイオリンコンクールなどで受賞。これまでにロペス＝コボス、ロス＝マルバ、ロッキントンらの指揮で、バルセロナ響、カスティージャ・イ・レオン響、サンクトペテルブルク国立アカデミー響、カンヌ管などと共演。サンタンデル音楽祭、イエロー・バーン音楽祭などでも活躍している。最新の録音『ブラームス & フランク：ヴァイオリン・ソナタ集』は、『レコード芸術』誌で推薦盤に選ばれ「ダークな静けさから立ち上る濃密な空気感」は耳をそばだてさせる」と評された。

読響日本交響楽団 第219回土曜マチネーシリーズ

2019年 **8月24**日(土) 14時開演
S ¥7,500 / A ¥5,500 / B ¥4,500 / C ¥4,000

読響日本交響楽団 第219回日曜マチネーシリーズ

2019年 **8月25**日(日) 14時開演
S ¥7,500 / A ¥5,500 / B ¥4,500 / C ¥4,000

東京芸術劇場 コンサートホール (池袋) 東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111
●JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ「池袋」駅西口より徒歩2分 (*駅地下通路2b出口と直結しています)

読響チケットセンター 0570-00-4390

東京芸術劇場には一時託児施設があります(公演1週間前までに予約)。わらべうた0120-415-306(予約受付:平日9時-17時)

学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

都合により曲目、出演者等が一部変更になる場合もございます。あらかじめご了承ください。■未就学児童のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296